



阿南工業高等専門学校

令和3年度 第19回参与会報告書

令和4年1月27日(木) 13時30～15時30分

阿南工業高等専門学校多目的スペース(図書館1階)

◆ 概要

阿南工業高等専門学校では、教育研究、管理及び運営、地域連携、国際交流等に関する重要事項について、学外有識者から助言を求めるため毎年参与会を開催しています。令和3年度の参与会は1月27日(木)に開催し、9名の参与にご出席いただきました。いただいたご助言を学内で周知のうえ情報共有するとともに、教職員が一丸となって改善に向けて取り組んでまいります。

また、本校では、本会に関わらず広く多くの方からのご意見等をいただき、教育改善につなげたいと考えております。



◆ 出席者

[参与(外部有識者)]

[会長] 徳島大学大学院社会産業理工学研究部長 橋爪 正樹 氏	
阿南市市長 表原 立磨 氏(代理出席 企画部長 松内 徹 氏)	
(一社) 徳島新聞社編集局報道本部地方班統括部長 滝本 昇 氏	
徳島県政策創造部県立総合大学校本部長 竹岡 正雄 氏	
阿南高専教育研究助成会長 西野 賢太郎 氏	
徳島県技術士会理事 花岡 史恵 氏	
徳島県教育委員会教育次長 藤本 和史 氏	
徳島県中学校長会長(徳島中学校長) 杉本 恭介 氏	
阿南高専同窓会長 横手 久典 氏	

[阿南高専]

校長 平山 けい	
副校長 田中 達治	
副校長・教務主事 坪井 泰士	
学科長(校長補佐) 原野 智哉	
専攻科長(校長補佐) 小西 智也	
地域連携・テクノセンター長 松本 高志	
グローバル推進室長 小林 美緒	

◆ 実施方法

1. 参与会開催前

参与会開催までに資料を事前に送付し、資料について質問、意見等がある場合は「意見書」として事前に提出いただく。

2. 参与会当日

- ・資料に基づき本校各担当から口頭による説明を行う。
- ・各参与から事前に提出された「意見書」に対する本校の対応について説明を行う。
- ・質疑応答・意見交換を行う。

3. 報告書をホームページにて公開する。



◆ 「意見書」に対する本校の回答

【表原参与】

(1) 阿南市及び地域企業との連携強化

資料にある ICT 講習会やまちマルシェへの参画、さらには阿南駅周辺のまちづくり等、積極的に取組んで頂き心より感謝申し上げます。

今後におきましても、ゼロカーボンシティ宣言に基づく各分野の取組や老朽化したインフラの再活用に向けたサウディング事業など、新たなチャレンジに着手してまいりますので、オープンソース化された地域課題をイノベーター育成の素材として活用いただけることを期待するものであります。

【本校の回答】

提案させていただいた小中学校教員向け ICT 講習会は阿南市のご協力により開催でき、たいへん好評でした。これにより ICT 教育を通して小中学校の教員と高専の連携が始まりました。ICT 技術に興味を持つ小中学生がいつそう増えることを期待しています。

ACT フェロウシップを中心とした地域企業ならびに阿南市との連携を密にして学生と地域課題との関わりを深めて参ります。本年度、ACT 倶楽部の活動を開始できましたので、さらに推進し学生がイノベーターとして成長できる学びの場を提供していきます。

【花岡参与】

(1) 人間力の養成で、「学外業者との協働」という項目がありますが、具体的にはどのような協働を行っていますか？ また今後はどのようなことを考えられていますか？

【本校の回答】

機械コースでは、1 年時のデザイン基礎とものづくり工学（溶接）、2 年時の機械工学実験実習（溶接、旋盤）、3 年時の機械工作実習（溶接、フライス）と 4 年時の機械設計製図（設計、CAD）において徳島県からマイスターを招き、指導していただいております。

建設コースでは、3 年と 4 年を対象に徳島県技術士会より講師を招き、技術者のあり方というキャリア教育の根幹について、グループワーク型式も含め、指導していただいております。また、4 年時の建築設計製図において大成建設株式会社から講師を招き、ゼネコン設計部の業務や学生時代に学ぶべきことについて、指導いただいております。同じく、4 年時の建築設計製図において東京大学大学院教授を講師に招き、防災とまちづくりについての知見を深め、考える機会を設けております。

知財教育として、1 年時のものづくり工学において国立高専機構から弁理士を招き、発明の定義・意義の共有や、実際にグループでアイデアを案出するワークの指導をしていただいております。

同じく、3・4 年時の特別教育活動やキャリア教育において日亜化学工業から技術者を招き、特許・著作権等の知財についての知識の共有や、企業における知財の活用に関する指導をしていただいております。

学外業者・専門家の知見や技術は、学生の知識・能力の養成に資するものであり、今後とも本校の目指す教育に適切に組み込む形で実施していきたいです。これは、工場・現場見学も同様です。

【花岡参与】

（２）専攻科の現在の取り組みの共同研究は、現在どのようなものがありますか？また、今後どのようなものを考えられていますか？

【本校の回答】

県内外の企業、大学、高専との共同研究が精力的に実施されています。今後は、リサーチユニット制度も活用し本校の学生（専攻科生・５年生だけでなく低学年学生）がより参画しやすい研究、本校学生のインターンシップ派遣や進学・就職につながるような研究、地域の活性化や地域の課題解決につながる研究、論文や特許等の業績につながるような研究を重点化したいと考えています。また、数理 AI データサイエンスを活用した学際研究も奨励したいと考えています。

（３）地域連携の小中学校の科学教育の内容や指導方法は、誰がどのように考えていますか？

【本校の回答】

地域連携・テクノセンターの地域連携部門が中心となり、とくしま科学技術アカデミー Society5.0 体感事業へ予算申請して採択された取組です。基本コンセプトは、「地域課題解決につながる最近の技術を扱う」、「単発のイベントではなく、よりコアな阿南高専ファン（受験希望者）を対象にした連続講座」、「小中学生が地域課題を解決する技術を学ぶ」、「高専生が教えることで、子ども及び保護者が高専生になればこんなに素晴らしく成長できると感じてもらう」として、プログラムを構築しました。

（４）グローバル推進の留学生と在校生の交流で、留学生を受け入れたことで在校生への影響はどのようなことがあげられますか？また、留学生とは留学終了後も交流はありますか？

【本校の回答】

今年度は１年生の特別活動の時間帯に長期留学生の紹介を行いました。１年生のアンケートでは、「日本以外の国の文化がきけて面白かった」「興味深い話が多くて楽しかった」などの意見があり、グローバル社会を意識するきっかけを作れたと考えます。クラス中に留学生が在籍する状況は在校生にとって多様性を受け入れる際に必要となる寛容さを育む土壌として重要な役割を持つと思います。来年度から１年次にタイからの留学生を２名受け入れる予定であり、低学年においてもそのようなプラスの影響があることを期待しています。また、コロナ禍のため、短期留学生の受け入れは近年行っておりませんが、これまで受け入れてきた短期留学生は研究室に在籍し、教員の提示する研究プロジェクトに従事します。短期留学生は基本的に日本語は話しませんので、研究室に在籍する学生は英語でコミュニケーションを取ることが必要です。研究室に在籍する学生は、短期留学生と実際に英語でコミュニケーションし研究に従事することができます。

留学終了後の留学生とは、facebook 等を通じて連絡が取れる状況になっています。留学終了後の交流の例として、以前、母国で教員をしている OB を招いて特別講演を開催したことがあります。また、オンライン交流会に OB を招いて在校生と交流したことがあります。今後、留学生の OG、OB と在校生との交流会や講演会などを検討していきたいと考えております。

【花岡参与】

（５）昨年度の反省とお願い

昨年度、技術士会として貴校への協力要望をお聞きしました折に、企業の仕事の見学や実際に業務に参加させてほしいとのご要望がありましたが、十分にお応えできていなく申し訳ありませんでした。また出前講座では、4 C の学生さんに、現地を見て考えてもらうという課題を与えてグループワークを行っていただきましたが、先生方に返ってお手間を取らせてしまったようです。出前講座についても先生方のお手間を取らせない方向での協力について、貴校の方からご提案いただけると有り難いです。

貴校の今後益々のご繁栄をお祈りいたしております。

【本校の回答】

コロナ感染を考慮し、対面でのグループワークをなくすため、事前調査を実施する形式でお願いしました。コロナが終息すれば、以前のようなグループワーク形式での講座を希望します。

今後、建設コース以外のコースについても技術士による出前講座が開催されると大変ありがたいです。

【西野参与】

（１）高専教育の国際化への対応で、ベトナムダナン大学との連携協定についての取り組みは計画されてないのでしょうか？

ダナン大学との連携の現状はいかがでしょうか。

【本校の回答】

ダナン大学は阿南高専の提携校であり、MoU を取り交わしています。コロナ禍以前は長期インターンシップで学生を派遣していましたが、現状では具体的な連携はできていない状況です。



◆ 質疑応答・ご意見・ご提案

【花岡参与】

「小・中学校の科学教育の内容や指導方法は、誰がどのように考えていますか？」というご質問があったと思うのですが、例えば（阿南高専の）学生さんが先生方と混ざって、どんな風な教育内容とかをやっているのかな？ということと考えられるという風なことを今後されてはどうかと思いますが、そのような取組はいかがでしょうか？

【本校の回答】

ドローンのテーマは学生が考えたものです。本校の学生に、小・中学生に対してこういう講座を開くんだけど、どういうテーマ、どういう内容だったらできるか、というのを考えてもらい、学生が考えたものを実践して、それを学生が実際に実施しました。私たちは安全管理をしているという立場で、基本学生が主体になった取組みになっています。

【松内阿南市企画部長：ご提案】

阿南市は昨年9月に県内の市町村としては初めて「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。今準備段階で、新年度から具体的には動くように予定しております。

また、市が抱えております公共施設、かなり大きな建物の面積を抱えております。こういった老朽化した施設のインフラの再活用等も考えていかなければいけないということで、今後、色々地層調査的な調査を行う等が予定されています。

そうした中で、市といたしましても、市が調査した情報を公開できるものは基本的にできるだけ公開をしていきたいという風に思っておりますので、高専の研究テーマとしてご利用いただけるようなものがあればご利用いただき、成果を返していただけると非常にありがたいと、地域課題の解決につながっていけるような取組みが1つでもできればありがたいかなという風に思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【竹岡参与】

先ほどの「10年後を見据えて」という取組みをお聞かせいただきまして、高専が科学技術者、エンジニアの育成拠点という形で、今後、努めていただけるということで、意見というのではないのですが、これからの地方創生を進めていく中で、やはり1つには人生100年時代のリカレント教育の推進というのが、これが地方創生の点では大きく重要になってくるのではないかと考えております。今取り組んでいただいている「大人の高専（リカレント教育）」、「小・中学生向け科学教育」、これも我々の方のSociety5.0 科学技術アカデミー事業という形で、県との連携で実際、実施の方を高専さんでやっていただいております。これは県の地域連携の取組みにも沿うようなものですので、ぜひこれを今後とも積極的に進めていただくということにつきまして、感謝申し上げますとともにお願いをしたいという風に思っております。外部資金の導入等も当然出てまいりますし、費用や人的資源というのが必要になってくると思います。こういったものについても次世代の光関連事業の内閣府からの交付金や我々の方からのリカレントプログラムの補助金、こういったものをご活用いただき、このKOSEN コモンズが展開する学び直しのできる環境づくりについて我々の方としても十分支援をさせていただきたいという風に思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【本校の回答】

ありがとうございました。本校としても県との連携、大変ありがたく思っております。今後ともご協力・ご支援いただけるように、本校教員もできる限りのことをして参りますので、よろしくお願いいたします。

【西野参与】

- (1) ACT フェローシップは最近、名前を「教育研究助成会」という名前に少し文字を増やさせていただいております。今年から、「ACT 倶楽部」、「起業塾」、それからアドミッションの1つとして小学校5年生・6年生を対象にした人型ロボット、ペッパー、それは福見先生にも大変ご苦勞をかけたのですが、色々新しい取組みを我々も今年からスタートさせていただいております。

私どもの方も来年度事業に向けて新たにいくつかの事業に取り組みたいと思っておりますが、まずは高専の方でACTが取り組んだ新たな事業についても、同時にご検証をお願いしておきたいと思っております。ACTといたしましても、機会があるごとに今日ご紹介いただきましたような10年先に向けた高専の取組みについては、私どももACT企業に対して積極的に広報してまいりたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

【本校の回答】

ACT企業の皆さまには常日頃、ご協力・ご支援をいただき感謝申し上げます。「ACT 倶楽部・ACT 起業塾」に関しては、本当に素晴らしい提案をいただきまして、ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。協力・協働で動いていければという風に思ひます。

- (2) 今年は受験生がこの10年間で最大数増えたということで、正直、私どもとしてもホツとしております。ずっとこの間、国立高専、全体的には受験生の減少ということと、高専が唱えております「卒業生の品質」というものについては、OBから時折辛口のご評価をいただく機会があつたのですが、この点については今日発表された内容でお取り組みいただくことによって、早晚、優秀なまた時代の課題に立ち向かえる高等技術者が育成されるものと期待をしております。

【本校の回答】

今後の倍率ですが、皆さん倍率を気にされるのですが、倍率ではないのです。中学校を訪問する際にも、保護者が学校説明を聞きに来られる際にも、中学生が聞きに来られる際にも私が申し上げることは、本当に本校で学びたいこと、やりたいこと、自分に向いていることがあるのかというのをちゃんと見極めてきてほしい、という話をしています。

ミスマッチで来る学生さんもおられます。それは、その学生にとって5年間を過ごさなければいけない、5年過ごすことなく1年目で辞めていく学生もおられます。本日、中学校長会の先生がおられますけれども、そういう子供たちが県立高校に行っていたらどんなに楽しい毎日が送られているだろうか、ということを常に思ひます。

倍率が高ければ良いのではなくて、本当にうちに来たい、学びたい、向いている学生をきちんと集めること。本校に来たいけど本校がどうしているか、というのをまだご存知ない方もいらっしゃると思うので、その広報はきちんとしていかなければいけないということです。

倍率が今年度上がったのは推薦入試、現状では推薦入試のみの倍率ですが、推薦で来るということは本校を本当に目指している子供たちだという風に思ひますので、その辺は少し違いがございます。

- (3) 以前もお願ひしたのですが、高専は今、阿南駅側の方に出入り口ができておりますけれども、たぶん昔は校長先生の官舎の入り口も橋だったと思うのですが、時々私もそこに入ってくるのですが、一度チェックをお願いしておきたいと思ひます。

【本校の回答】

橋に関して、今工事にかかっておりますのでご安心ください。

【藤本参与】

- (1) 高校サイドでも大きな課題になっているのですが、やはり少子化による中学生の減少の部分です。これについては本当に避けられない状況になってきておりまして、今回が 10 年後を見据えてということなのですが、10 年ほど経つと更に一層、中学生の減少が進んでいるという中で、今はもう既に高校の方では県外募集というところをだいぶ力を入れ始めました。

今日の生徒募集の中では、特にはそここのところは触れられていなかったかと思うのですが、せっかく阿南高専さんの寮というところで県外からもどんどん今も来られていると思うのですが、呼び込める素地は持たれていると思います。

県外にも高専が確かあったかと思いますので、県外との差別化、徳島に来ると阿南高専だとこんな独特のことを勉強できるとか、高校でもこんなことができるのなら徳島に行ってみたいなと思えるような、そういう風なところをぜひまた一緒に考えていただけたらと思います。

【本校の回答】

県外の生徒募集に関してですが、ご承知とは思いますが国立高専、全国で 55 キャンパス、51 高専ございます。無い県もございますが、ほとんどの都道府県で高専がございますので、95%~99%はその県出身の中学生の生徒さんが受験するというのが現状でございます。

現在、高専が取り組んでおりますことは、その地域以外の高専を受けたいという生徒さんは「最寄り地受験」というものができており、例えば阿南高専を受けたいけれども、自分は新潟に住んでいる。そういう子供たちは新潟の高専で受験をして、これができるのは全国の高専の入試は統一試験だからです。

そして、県外へ生徒を求めるというよりも、今後は技術者、エンジニアが足りないというのはもう間違いないことです。海外へ生徒を求めるように今、動きつつございます。タイ・ベトナム・モンゴルに日本型の高専、KOSEN です。KOSEN が開設されているのも、その一端ではないかという風に思っております。

なお、既に近県から、これまでも香川や淡路島から入学いただいております。特に広報情報室の方で活動しておりますところ、淡路からのご希望が増えているところです。

各地に高専があるのですが、その中でも阿南高専を選んでもらえるように、高専間でも阿南高専が抜き出るようにしっかり教育をして、尚且つそれをアピールするというのを継続していきたいと思っております。

その先にはグローバルである国外からも、と思っております。

- (2) 非常に盛り沢山のことに取り組まれてまして、取り組みれば取り組むほどマンパワーが非常に必要になってくるだろうと思っております。実は小・中・高では非常に教員の負担という面で、全国的にも言われております。そんな中で、阿南高専さんで、教員のマンパワーの部分、今後色々また取組みをどんどん続けられていく中で、その辺というのを今後どのように考えられているのか。今現状、問題はないのか、もしかしたらあるのか、その辺も含めて展望等がございましたらお聞かせいただけたらと思います。

【本校の回答】

マンパワーに関してですが、高専も国立ですので人員削減が行われています。現状で更に削減が行われている状態で、教員のみならず教職員の負担はとにかく大きいです。通常教育業務に加えて地域連携、地域貢献、研究等も高専の教員には課せられておりますので、マンパワーに関しては県立高校さんと同様の部分があるかと思えます。ただ、これに関しては高専として外部の予算を取ってくる、文科省・厚生省・国交省などの予算を取ってくることで、その予算を使って研究教育をする上で人材を、人を雇うということもできますので、その点は高校に比べると動きやすい部分があるのかという風に考えております。

【杉本参与】

(1) 阿南高専さんにつきましては、高校と違うのはまず5年間通うというところがまず大きなハードルでもありますし、魅力でもあると思います。これは他の中学校の校長会の方でも「阿南高専さんとの会があるのだけど、何かご意見ないですか？」と聞くと、“5年間であることの意味をもう少し明確にさせていただくのが良いのではないか”、という意見がありました。

卒業時、5年間を終えた高専卒の方の人材としての役目というのは何か、というのがなかなか見えにくいということです。社会に出た時に、そのあと大学に進まれる方もいると思うのですけれども、まず5年間で卒業した場合に社会のどのような部分に貢献できる人材が育つか。

中学生にしてみたら、自分はどういう風に社会に貢献できる人間になっていけるのかという辺り、その辺りがもう少し明確に見えると、自信を持って進路選択できるのではないかという声だったかと思います。大学に行くよりも高専という選択をする明確な理由が持てる何かがあれば良いのかな、という風に思うことと。

もう1つは、阿南市にあるということの強みと言いますか、阿南市内の中学生にとっては身近な存在だとは思いますが、その他の地域の中学生にとると、やはり阿南高専に行くということは、つまり寮生活をするということが伴ってきます。寮生活をしてでも阿南高専に行きたいと思えるようなものがあれば。

魅力ある高校であれば県外にでも単身で進学している生徒は最近非常に多いです。学習面でもスポーツ面でも優秀な子たちが、どんどん県外へ流出している現実もあります。ですから阿南高専も同様に、そういう風に寮に入っても、親元を離れてでも行きたいと思えるような何か、というものを発信していただけたらという風に考える次第です。まさにマッチングできるような情報をいただけたらと。

【本校の回答】

進路選択で、もう少し明確にしなければいけない部分というのがわかりました。今後、中学校訪問やご説明会等で先生のおっしゃることを参考にしていきたいと思います。

社会のどの部分に貢献できるのかというのは、今日もご説明させていただいたとおり、本校はエンジニアを育てる学校ですので、お医者さんを育てる学校ではございませんので、社会を牽引する、お金を儲けたいとかそういうことではなく、誰かのために役に立ちたい、どのようなことで役に立ちたいかというところで、エンジニアとして技術と知識を知恵に変えて人のために役に立ちたいという中学生の皆さんに是非とも来ていただきたいというのが一番でございます。

本校の養成したい学生像は明確なのですが、それを中学生さんにわかる形での発信が足りなかったのだろうな、というご指摘だと思います。

ただ、一昨年のコロナ禍の時には非常に志願が落ちたのです。その中で盛り返してきたのは、本校の広報・情報室、あるいは校長指揮の下ホームページ、メディアへの露出・発信だと思っています。

その中で、こういう人になってほしいのだということ、中学生さんに向けたもっと具体的なメッセージを使いながら、今後とも本校の魅力を発信していきたいと思っております。ありがとうございました。

そして、“魅力”ということなのですが、今年度から実は本校の学生を前に出して、学生に中学生の皆さんに実際に接してもらう機会をなるべく増やすという取組みをしています。

やはり本校の学生がどういう学生で、今現在どういう気持ちを持って勉強に取り組んで、将来どうなりたいか、そういうものを実際、中学生の皆さんに伝える機会というのをなるべく多く取って、本校の魅力というのを学生目線でも発信していくという取組みを今後進めていきたいと思っています。

ぜひ阿南高専に来て、見て実際に感じてもらうような、体験する場というのをなるべく多く設けて、中学生の皆さんにわかりやすい広報というのを心掛けていこうと考えておりますので、今後ともよろしくお願いします。

【杉本参与】

(2) 先ほどご紹介いただいた高専を特集した日経産業新聞を開いてみますと「神山まるごと高専」の記事が大きく取り扱っていました。来年、再来年度ですか、開校予定で進んでいるこの「神山まるごと高専」というのも、中学生にとってみたらどういったものかな？という風な話題になってこようかと思います。そうなってくると、阿南高専と神山との違いは何かということも、まず中学校現場としては明確に今後提示していかないといけないのかなという風にも考えております。

【本校の回答】

「神山まるごと高専」に関しては、情報系の起業家を育てる、全国から公募をして1学科40名の高専ということで、私立の高専です。そして、本校と競合するのではなく、良いところを取りあい、同じ徳島県にある高専ですので、協力し合って人材育成をしていけるように、今後そのように動いていければという風に思っております。

まずは文科省の審査に受かっていただいて、徳島県には高専が2つある、という風に動いていければと考えております。

(3) 2030年というのが1つの大きなキーワードになるということを職員と共に考えてきたのですが、2030年はもうすぐ近くに来ております。ところが、まだはつきり見えない部分もあります。それで、そこから逆算して今何をどうしていけば良いのかというのも模索しながら進めています。

1つのキーワードが「主体的・対話的で深い学び」であろうし、今年から始まった「GIGAスクール」であろうということで取り組んでいるのですが、高専さんがここで思い描かれている10年後というのがどういう社会であるのか、どういう人材を求められているのかという辺りを明確に押し出していただくと、ここに行くとそういう風な時代にマッチングする教育をしてくれるのか、ということが中学生により明確に届くのかな、と。

また、我々中学校もそこに送り出すのには、それじゃあ中学校ではどのような教育をすれば良いのかというのを、考えて日々取り組んでいけるか、という風に考えました。

本屋に行くと、2040年・2050年の本がチラホラ出てきているので、2030年というのはすぐ近くなのかなと思ったりもするのですが、その辺りでリードしていただけると大変ありがたいなという風に思う次第です。

【本校の回答】

2030年・2040年、どういう人材を育てているのか、見通しのつかない世の中になっておりますので、先ほど説明させていただいたとおり、どんな状況になっても変わらない部分、基礎的な知識はきちんと、どこでも使える知識を備えて、その先は今までは1つの分野でOKだったものを柔軟に分野横断的に学べる教育をして、どんな時にでも対応できるエンジニアとして育てていく、というのが目指しているところです。

また、本校で育てるべき学生像としては、社会情勢の変化に対応できるように必要な知識を色々なところから学習して、自分に取り込む能力が今後更に必要になってくるだろう、と。その点につきましては、やはり本校で教えています分野横断的な能力を伸ばすための教育に取り組んでいるのですが、自コースだけではなく、他のコースの学生さんとの合意形成といった教育をしつつ、必要な知識を色々な人から得ていき、統合して新たな付加価値をつけて送り出すような、そういった教育を既に始めておりますので、そういったところを今後更に強めていけば、ある程度対応できる学生さんが育っていくのだろう、と思っております。こういった技術が今後展開されて、必要なものを予測するのは非常に難しいのですが、持っている人間力を鍛えていきたいと考えております。

◆ 講 評

【橋爪会長】

阿南高専さんの学生さんや OB の方を見ておりますと、チャレンジ力がございまして、知識の吸収力があります。努力をされています。そういう人材を育てるということはなかなか難しいことです。

我々の大学は受験勉強の弊害をいかにして取るかということに、非常に大学に入ってから苦勞するのですが、それを最初の段階からエンジニアを育てていくという立場から見たら、非常に良い教育体制になっております。

また、阿南高専さんを見ていますと教職員の輪が非常によくできています。その輪ができており、学生を育てようということが非常によくできております。特にラーニング・マネジメント・システムが非常に早い段階で立ち上がりました。そして 1 学科構成にされたのがちょうどよいタイミングとなり、すべての先生方が教育に携わる、その場をそこで作ったという感じを私の方から見るができます。

そのようなみんなで協力し合う場を作られたということと、チーム力がものすごく優れているということ、私が感じているところです。それを今後もずっと協力してやっていただければ、というのが他の高専さんとの違いもそこにあると思います。そういう意味で、データサイエンス力も一番最初に、日本全国の中の 4 つの高専です。一番最初に取られたことに、非常に驚きました。

松本先生から、そのラーニングマネジメントで、データサイエンスを最初からやっているのだという話を聞いておりまして、その上にどんどん積み上げていく、あの凄さは非常に驚かされましたので、ぜひその特徴を出していただければと思います。

また、先ほどから色々高専さんの話があるのですが、高専さんを卒業された方で、校長先生が言われましたようにエンジニアだけではなくて学者も育てているのです。学者を育てるのも中学生ぐらいの時から育てているのだということも、逆に言うと非常に広い、エンジニア以外に学者まで含めた非常に広いところの人材育成ができる場であるというのを、ぜひ小・中学生にご説明をされる時にアピールしていただければと思います。

それと、ここの高専は本当にみんなで協力し合っている。その環境を作っているのですね。ラーニング・マネジメント・システムを含めてなんですけど、そこところもアピールしていただければと思いますので、ぜひ今後の 10 年間以上も含めて、ご検討いただければと思います。



橋爪会長

◆ 校長挨拶

本日は、「10年後の阿南高専を見据えて」をテーマに現在本校で積極的に取り組んでいることをご説明させていただきました。参与会の皆様には忌憚のない貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。皆様方からのご意見は、今後の学校運営に反映させていただきます。また、本校の取り組みに対して、お褒めのお言葉を頂戴し、精一杯動いている教職員を高く評価いただき深く感謝申し上げます。

本校を目指し、入学してくださった中学生の皆さんには一人一人の夢が叶うように、また、人間力を備え、人に寄り添えることのできるエンジニアとして確実に育ててまいります。

10年後を見据えて、高等教育機関として常に前進する努力をしておりますが、この速い流れの中では、10年先が予測不可能で見通せないことが多々ございます。そのような中にあってもエンジニアを育てる高等教育機関として、本校で学ぶ学生の学びの質を保証していかなければなりません。時代が求める高い技術と知識、更には人間力を兼ね備えたエンジニアを育成し、世の中に輩出し続けるためには、教職員が変革を恐れず、常に教育改善と改革を行い、自らも知識・技術・教育力を研鑽していかなければなりません。本校教職員の教育力・組織力を結集し、一丸となり、慢心することなく私たち一人一人が世の中の大きな変革に対応できる知識と技術を学び、知恵に変え、人間力をさらに磨いてまいります。

今後共々参与の皆さま方のご協力・ご支援とご理解をいただきたく存じます。

本日は誠にありがとうございました。

令和4年1月27日

校長 平山 けい



※ 今回は感染予防対策のため対面とオンラインのハイブリッド方式で開催いたしました。



本報告書に対するご意見・ご相談はこちらへ
阿南工業高等専門学校

TEL:0884-23-7223

E-mail:s-hosasoumu@anan-nct.ac.jp

担当：総務課長補佐（総務担当）